

# 文化施設のあり方検討 秋葉区 報告書



# 目 次

はじめに	2
第1章 現地調査とワークショップ	
I 現地調査	3
II ワークショップ	3
III 現地調査から判明したこと	11
第2章 評価結果	
I ワークショップ・現地調査による検討、評価で見えた課題	13
第3章 今後の方向性について	
I 秋葉区の文化施設、活動の活性化へ	15
II 新津鉄道資料館 対応策	15
III 石油の世界館 対応策	17
IV 新津美術館 対応策	19
V 小須戸町屋 対応策	20
VI 市役所、区役所と文化施設、活動 対応策 ～連携、協働と方針づくり～	21
アドバイザーからのコメント	23
おわりに	24
資料編	25

## はじめに

平成17年3月の広域市町村による合併、平成19年4月の政令指定都市移行・区制導入により、旧新津市、旧小須戸町を区域とする「秋葉区」が誕生した。

秋葉区は、東西を阿賀野川、信濃川の二大河川に囲まれ、北には小阿賀野川、そして南には山間丘陵部を有した、四季を通じて美しい表情を見せる「水と緑のまち」であるとともに、花き花木、球根の生産地として全国に知られている。さらに、かつては石油・鉄道のまちとして栄え、信濃川の川湊町として栄えた在郷町小須戸もあることから、恵まれた自然、そして個性豊かな産業・文化がある区であると言える。

秋葉区は、これら文化を紹介する施設があり、活動も行われているが、政令指定都市になって4年半が経過し、地域の文化施設のあり方、活動などを見直し、新たな方向性を検討することは、秋葉区のみならず他の区の、そして市全体の文化施策の参考ともなるものである。

この地域の文化施設・活動に関する現状について洗い出し、地域の声も反映させながらその解決に向けた方向性を探るべく、文化観光・スポーツ部文化政策課が主体となり、秋葉区役所地域課と共同で検討作業を進めることとし、西蒲区に引き続き法政大学キャリアデザイン学部金山喜昭教授をアドバイザーとして迎え、都市政策研究所協力のもと、所在する文化施設・活動の実態調査、そして各施設等に関わる地域の住民や区役所等職員を対象にしたワークショップを実施したうえで、文化施設のあり方について調査検討し、次頁以降のとおり報告するものである。

なお、今回の検討推進体制は以下のとおりである。

平成24年1月

### － 新潟市秋葉区文化施設のあり方検討 推進体制 －

□新潟市役所文化観光・スポーツ部文化政策課

□新潟市秋葉区役所地域課

□協力

○新潟市文化施設のあり方検討アドバイザー

法政大学キャリアデザイン学部 教授	金山喜昭
-------------------	------

○新潟市文化施設のあり方検討補助員

東京大学大学院人文社会系研究科修士課程 1年生	竹内 唯
慶應義塾大学総合政策学部 4年生	山本 竜也
法政大学キャリアデザイン学部 4年生	橋爪 萌

○新潟市都市政策研究所

# 第1章 現地調査とワークショップ

秋葉区は、合併した旧新津市、旧小須戸町の構成となっているが、今回、区内における対象文化施設については、

○新津鉄道資料館      ○石油の世界館      ○新津美術館      (いずれも旧新津市)

の3館を設定した。

一方、旧小須戸町については、対象となる文化施設はないものの、信濃川の川湊町として栄えたまちとして、その歴史的町屋・町並みを活かしたまちづくり活動を行っていることから、区内全体、また各文化施設との連携も視野に入れながら、

○小須戸町屋「薩摩屋」      (旧小須戸町)

を含めた、計4つの施設・活動のグループで検討を行うこととした。

については、アドバイザーなど関係者の協力を得て、文化施設の現地調査、並びにワークショップを次のとおり実施した。

## I 現地調査

- 日時 : 平成23年7月28日(木)  
内容 : ○金山アドバイザーによる秋葉区内施設確認  
         ○小須戸町屋での活動調査  
         ○ワークショップ実施内容調整

## II ワークショップ

現地調査を踏まえ、ワークショップ(WS)は4回実施したが、その参加者数は78人(延べ人数)である。

なお、グループごとの参加人数(延べ人数)は次のとおりである。

- 新津鉄道資料館 : 16人(市民12人、職員4人)  
石油の世界館 : 27人(市民24人、職員3人)  
新津美術館 : 16人(職員16人)  
小須戸町屋 : 19人(市民15人、職員4人)

## 1. 第1回 WS

### (1) 経過

日時：平成23年8月8日（月） 午後1時～5時

場所：秋葉区役所401会議室

テーマ：「わがマチの文化施設を良くするために」

WS参加者：20人（市民13人、職員7人） ※名簿は資料編のとおり

内容：・オリエンテーション

・金山アドバイザーによる講義

・WSの目的や約束事の説明

・グループワーク「自分たちの文化施設を診断」

「良い点」と「悪い点・疑問点」を整理し、悪い点・疑問点についての「改善策」を検討

・各チームによる整理・検討内容の発表

・参加者に対するアンケート調査 ※結果は資料編のとおり

### (2) 施設の状況 ～良い点、悪い点の洗い出し～

#### ①新津鉄道資料館

良い点	<p>ア 展示・資料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○資料がたくさんある。</li> <li>○展示が見やすい。</li> <li>○記念切符などめずらしいものが多い。</li> <li>○模型があって子供たちに喜ばれる。</li> <li>○めずらしいものがある。</li> <li>○実際に使った実物(本物)が多い。</li> <li>○鉄道博物館(さいたま市)にはない貴重な資料がある。</li> </ul> <p>ウ 歴史</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○昔から二大鉄道の町は日本では新津と米原が有名</li> <li>○秋葉区には電車を製作する工場がある。</li> <li>○日本の新幹線技術を世界にPRしたらどうか。</li> </ul> <p>エ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○入館料が安い(大人200円, 小人100円)。</li> </ul>	<p>イ 資料館、新津駅周辺の環境</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○活きたSLに接することが出来る。</li> <li>○鉄道に関する事項を直ぐに知ることができる。</li> <li>○説明が詳しい。</li> <li>○新津駅には0kmポスト(起点標示)が2か所ある。</li> </ul>
悪い点・疑問点	<p>ア 展示・資料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○動きのある展示品があると良い。</li> <li>○子供たちが興味を持てそうな展示・資料が欲しい。</li> <li>○子供たちが体験できる展示・資料がもっとあると良い。</li> <li>○子供でも操作できる運転台を設け人気の的としたい。</li> </ul>	<p>イ 施設・ハード面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○多目的利用ができる場所がない。</li> <li>○エアコンの数が少なく夏は暑い。</li> </ul>

悪い点・ 疑問点	ウ 場所 ○新津駅から離れている。 ○鉄道の町新津が近隣地の鉄道網の中心地で無くなった。 ○場所が判りにくい。 ○秋葉区の交通が不便。 ○鉄道資料館の設置場所が悪い。 ○新津駅0番線のところに資料館移転の計画があるが、建物設置にかかる経費や面積は大丈夫か。 ○新津車両製作所を知らない。	○位置について色々な意見がある、もっと駅に近いほうがいいのでは。 ○JRと協定して、新潟発、長岡発列車には、新津駅から資料館に接続バスがあると掲示した方がいいのでは。 ○資料館への交通をもっと便利にした方がいいのでは。 ※疑問点 ○ずっとこのままで良いのか？ ○ニーズの動向に勉強不足。
改善策	「展示資料について」・・・個人・企業等に協力を求める運動を展開する。 「場所について」・・・可能な限り、新津駅周辺が理想。 新津にはJRの車両製作所があるが、それと新情報など有機的な連携を深めたい。	

## ②石油の世界館

良い点	○展示物 ・世界館だけにしかない貴重な資料が豊富にある。 ・模型（上総掘り）が素晴らしい。 ○存在価値 ・石油を含む地層を直接見ることができる。 ・周辺に石油文化遺産がある。 ・学校教育活動に使われている。 ・友の会が発足し、積極的に活動している。	○料金 ・入館料が無料である。 ○周辺環境 ・中野邸のもみじ園が見える。
悪い点・ 疑問点	○アクセス ・交通の便が悪い。 ・駐車場から歩く。 ○人 ・館長、学芸員がいない。 ○管理運営 ・入館者が少ない。 ・館の運営費が少ない。	○設備（展示） ・展示内容がリニューアルされてない。 ・音響、映像の設備が古い。 ・展示の説明がむずかしい。 ○設備（展示以外） ・エレベーターがない（車椅子、高齢者）。 ・2階展示場の利用が少ない。 ・公園内の手入れ不備。
改善策	○アクセス ・区バス本数増便。 ・植物園、美術館エリアとのシャトルバスの運行（イベント以外） ・矢代田駅からの歩道の整備。 ・案内板をもっと増やす。	○人 ・館長、学芸員を置くようにする。 ○管理運営 ・「石油の里」（世界館、観光物産館、石油遺産）を一体化して管理運営をする。 ○設備（展示） ・展示を更新する。

### ③新津美術館

<p>良い点</p>	<p>○施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開放感のあるエントランスと、インパクトのある大理石のアトリウム。</li> <li>・建物が特徴的で、比較的地震に強い。</li> <li>・駐車場が広い。</li> </ul> <p>○周辺環境</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然に恵まれた環境の中にある。</li> <li>・周辺に魅力的な施設がある。</li> </ul>	<p>○地域との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リピーターが多い。</li> <li>・周辺施設と連携し、地域イベントに参加している。</li> </ul> <p>○スタッフ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフがお互いに協力して業務をしている。</li> </ul> <p>○企画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・美術以外にも、文学や音楽、パフォーマンスなど幅広い活動をしている。</li> <li>・子ども向けのサービスが充実している。</li> </ul>
<p>悪い点・疑問点</p>	<p>○施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・階段が多く2階にトイレがないなど、足が不自由な人に不便をかけている。</li> <li>・常設展と喫茶が2階にあるため、受付での有料・無料の判断が難しい。</li> <li>・館内や周辺に、食事ができる施設が少ない。</li> </ul> <p>○アクセス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道路案内が少なく、また公共交通の便が悪い。</li> </ul> <p>○展示</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ライティング設備が不十分</li> <li>・特徴であるサブカルチャーの展示を、他施設でも多くやるようになってきている。</li> <li>・観覧者（特に子ども）への注意が厳しいとの意見がある。一方で、観覧マナーが悪いとの指摘もある。</li> </ul>	<p>○学芸</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員が少なく、学芸員が多くの展覧会と総務の業務も担っている。</li> </ul> <p>○地域連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺施設の情報が入りにくい。</li> </ul> <p>○マネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・財団（当時）との業務の棲み分けが不十分である。</li> <li>・「新潟市新津美術館」という名称が、遠方の人にとって地理的理解を得にくい。</li> </ul>
<p>改善策</p>	<p>○施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・館内の表示や動線を工夫する。</li> </ul> <p>○知名度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・覚えやすい愛称を考える。</li> </ul>	<p>○アクセス・サービス・地域連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺施設との情報共有を一層進める。</li> </ul> <p>○展示マナー向上・接客</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マナーについて、子ども向けの分かりやすい説明を行う。</li> </ul>

### ④小須戸町屋

<p>良い点</p>	<p>○ソフト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・セコムが管理していないので利用しやすい。</li> <li>・家賃激安!!</li> <li>・家賃、水道料、電気量はコミ協が払ってくれる。</li> <li>・大家が良心的に利用させてくれる。</li> <li>・住民の性格が穏やか。</li> <li>・明るい。</li> <li>・まちづくりの仕組みや制度に詳しい人が協力してくれている。</li> <li>・住民の力で活動を進めている。</li> <li>・専門に勉強している人がいる。</li> </ul>	<p>○ハード(設備)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自由に使える場所である。</li> <li>・町屋の建物で大変良い。</li> <li>・トイレの改修が済んで利用しやすくなった。</li> <li>・トイレが一番きれいで気分が良い。</li> <li>・トイレまでの動線が長い。</li> </ul>
------------	---	--

	<p>○ハード(建物の魅力)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町屋が並んでいるところ。</li> <li>・雁木があるところ。</li> <li>・建物の中にいると、まったくとなつかしくなる。</li> <li>・町屋としてすばらしい。</li> <li>・風通し良好。</li> <li>・大家さんが使用していた家具がそのまま置いてある。</li> <li>・現在も建物の中で生活が営まれている。</li> <li>・地域に他にもいろいろな資源がある。</li> <li>・ほっとさせる家。</li> </ul>	<p>○現状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地道な活動で知名度が上がってきた。</li> <li>・小中学生の勉強の場にもなっている。</li> <li>・最近会議利用が多くなった。</li> <li>・地域の拠点。</li> <li>・町の中心にある(使いやすい)。</li> <li>・イベント利用で活用している。</li> <li>・掃除をする時に町屋ボランティアの方々の協力をいただける。</li> </ul>
悪い点・ 疑問点	<p>&lt;悪い点&gt;</p> <p>○ソフト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日、ギャラリーがオープンしていない。</li> <li>・常時利用できない。</li> <li>・お茶が飲めない。</li> <li>・アルコールが飲めない。</li> <li>・管理者がいない。</li> <li>・おみやげ店がない。</li> </ul> <p>○ハード(建物の魅力)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町屋観光と住民のプライバシーの両立。</li> </ul> <p>○ハード(設備)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表から目立たない。</li> <li>・トイレまでの動線が長いのは良いが、その間を活用できたら…。</li> <li>・防災面に課題がある。</li> <li>・店部分が町屋のおもむきにそぐわない。</li> </ul> <p>○認知度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元の人の関心が薄い。</li> <li>・地域の人の取り込み(参加)がまいち。</li> <li>・一部の地域の方の利用で、他地域の利用があまりない。</li> <li>・商工会がもっと協力してくれるといいのに…。</li> <li>・各店の協力がまいちである(イベントの時)。</li> <li>・沢山紹介したいのに、現在住んでいるのでプライバシーの問題がある。</li> </ul>	<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の組織との連携が弱い。</li> <li>・まち全体での取り組みになっていない。</li> </ul> <p>&lt;疑問点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町として、今後どうしていく?(町屋、防災、福祉…)</li> <li>・どういう目的でどう運営していくのか。</li> <li>・これからの方向性がまだわからないので、取り組みが不十分。</li> <li>・何故、お隣の方々来ていただけないの…。</li> <li>・一ノ町、二ノ町、三ノ町何故出ないのでしょうか。</li> <li>・町屋ギャラリーの意義が伝わっていない(何のためにあるのか)。</li> </ul>
改善策	<p>○認知度の不足</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PR方法の再検討。</li> </ul> <p>○地域住民の取り組み方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民の参加できる企画。</li> <li>・建築関係者との連携。</li> <li>・商工会との協力。</li> <li>・商店街の協力。</li> </ul>	<p>○おもてなし</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事をとりながら話す場に。</li> <li>・店番の確保→住民ボランティア。 ↓↓</li> <li>・住民意識をいかに盛り上げるか。</li> </ul>



## 2. 第2回 WS

### (1) 経過

日時：平成23年8月22日（月）午後1時～午後4時40分

場所：小須戸町屋 → 石油の世界館・物産館 → 新津美術館 → 新津鉄道資料館

テーマ：「わがマチの文化施設を紹介します」

WS参加者：19人（市民13人、職員6人） ※名簿は資料編のとおり

内容：・対象施設の見学（各文化施設に関わる市民による説明案内と質疑応答）

・参加者に対するアンケート調査 ※結果は資料編のとおり

## 3. 第3回 WS

### (1) 経過

日時：平成23年8月29日（月）午後1時～5時

場所：秋葉区役所401会議室

テーマ：「文化活動や文化施設との連携をさぐる」

WS参加者：19人（市民12人、職員7人） ※名簿は資料編のとおり

内容：・ミニ講演＜市民による文化活動と施設の運営＞（金山アドバイザー）

・グループワーク【意見交換、各グループによる発表】

1. 現状の再検討

2. 文化活動や文化施設との連携をさぐる

・参加者に対するアンケート調査 ※結果は資料編のとおり

### (2) WSで出された各文化施設の連携案

#### ①新津鉄道資料館からの連携

○石油の世界館に対して連携したいこと
・石油の輸送手段等のイベント開催時の協力（資料提供）。 ・世界館なのだから、旧新津市内の石油遺跡の観光案内くらい展示してほしい。 宝田橋、日宝町、柄目木真柄家、滝谷町石碑など。 ※石油の世界館より「世界館とは地理的な意味ではなく、内容が世界（全体）という意味です。」 ・世界館2Fで、共同でイベント開催。
○新津美術館に対して連携したいこと
・資料の提供（イベントに合った資料）。 ・鉄道の歴史等の講演依頼。 ・H22.11 銀河鉄道の夜（イベント）の経験を活かして。
○小須戸町屋に対して連携したいこと
・石油の運搬→鉄道輸送と舟運のイベント開催時の協力（資料提供）。
※全体
・各施設への連携によるイベント（作品作り）。 ・鉄道資料館独自の企画展を検討したい。

## ②石油の世界館からの連携

○新津鉄道資料館に対して連携したいこと
・展示会の共催（資料の借受、石油の鉄道輸送の資料）。 ・講演会の依頼（石油の鉄道輸送）。
○新津美術館に対して連携したいこと
・シャトルバス運行。 ・講演会の依頼。
○小須戸町屋に対して連携したいこと
・展示室の活用（石油の船輸送の資料）。

## ③新津美術館からの連携

○新津鉄道資料館に対して連携したいこと
展覧会関連イベントへの協力 ・鉄道関連資料の提供。 ・情報発信をしてくれる人材の協力。
○石油の世界館に対して連携したいこと
地域連携 ・主催イベントの美術館利用。 ・地域PRイベントでの連携による誘客。
○小須戸町屋に対して連携したいこと
小須戸まちなかに関する研究 ・町屋をはじめとするまちなかの歴史、芸術、文化に関する情報の提供。

## ④小須戸町屋からの連携

○新津鉄道資料館に対して連携したいこと
・イベント（舟運と鉄道）。 ・資料の借入（薩摩屋で展示）。
○石油の世界館に対して連携したいこと
・金津の中野様の名がついた小路つながりで石油の運搬、船輸送、歴史等に関する講演などを行う。
○新津美術館に対して連携したいこと
・「水と土の芸術祭」でのアート作品の展示サポート（人の派遣）。 ・小須戸縞の作品展示（まずは薩摩屋で?）。 ・小須戸に縁のある小説家、映画主人公（浜松事件）などの企画。

## 4. 第4回 WS

### (1) 経過

日時：平成23年9月5日（月）午後1時～4時

場所：秋葉区役所401会議室

テーマ：「文化施設を運営する行動計画をつくろう」

WS参加者：20人（市民13人、職員7人） ※名簿は資料編のとおり

内容：・グループワーク

「ヤリタイ・ヤレル・ヤレソウなことを考える（行動計画づくり）」

各チームによる発表

- ・全体での意見交換  
長期的な課題について意見交換、グループごとに発表。
- ・参加者に対するアンケート調査 ※結果は資料編のとおり

## (2) WSで出された施設の現状分析とビジョン

ワークショップでは、文化施設、活動の

- ミッション（使命）
- 障害となっていること
- その解決策

について、それぞれどのように現状分析し、ビジョン（将来像）を持っているかについて、次のとおり意見が出されている。

### ①新津鉄道資料館

○ミッション（使命）
「市民に喜ばれる資料館に」 ☆お客様のニーズに合った情報収集に努めること。 ※ニーズ：各層により違う。例えば子供はシュミレーション、新型車両。年配者はSL又は時代物（歴史物）。
○障害となっていること
☆情報不足、調査不足 <ul style="list-style-type: none"> <li>・JR、JRのOB、ファン、各施設との意見交換が少ない。</li> <li>・ニーズを把握する努力が足りない。</li> </ul> ☆野田は東武鉄道の沿線でJRとは縁がないが、新津は、米原とともに日本二大鉄道都市といわれた。この点から野田の話から秋葉区にもってきた場合、どう考えたらよいか十分検討する必要がある。 ☆資料館から鉄道資料の話をアピールする必要がある。
○その解決策
☆情報収集方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・JR、JRのOB、ファンと意見交換する。</li> <li>・入館者よりアンケート、広報の活用。</li> <li>・JR、JRのOBから新情報を得る。</li> </ul>

### ②石油の世界館

○ミッション（使命）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族で訪れることのできる館。</li> <li>・学校教育にもっと利用してもらう（子供たちにもわかる展示）。</li> <li>・周辺の産業遺産と一体化した博物館。</li> <li>・常に新鮮味のある博物館。</li> <li>・学問研究に必要な博物館。</li> </ul>
○障害となっていること
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学芸員が不在なこと。企画運営の母体がない。事業展開なし。</li> <li>・企画運営するための運営費がない。</li> <li>・担当所管がバラバラ（観光物産館、産業遺産等）。</li> </ul>
○その解決策
<ul style="list-style-type: none"> <li>・所管の一本化。</li> <li>・企画運営するため最低限の運営費。</li> <li>・産業遺産の整備。</li> </ul>

### ③新津美術館

○ミッション（使命）
☆気持ちが良い美術館 ・魅力ある展覧会（本格、サブカルチャー、絵本展など）の開催。 ・子ども連れなど、誰もがくつろげるスペースづくり。
○障害となっていること
☆展示室の天井が高く、子供などの声が反響する。 ・来館者に注意せざるを得ず、子ども連れから敬遠される。
○その解決策
☆ストレスの少ない観覧環境づくり ・読書スペースの常設化。 ・エントランスなどでBGMを流す。

### ④小須戸町屋

○ミッション（使命）
・薩摩屋の利活用→地域住民の意識を高める。 ・商店街との連携→商店街、町並み研究会、行政との連携。
○障害となっていること
・薩摩屋のPR不足。 ・商店街の意識不足。 ・地域の文化の消失。
○その解決策
・薩摩屋の看板の設置、内装の変更→住民を巻き込んで。 ・写真展→小中学生を巻き込む！ ・公民館での文化活動と連携→薩摩屋で発表会を。 ・商店街を巻き込んだイベントの企画。

## Ⅲ 現地調査から判明したこと

### 1. 全体を通じて

- (1) 通常地域の文化施設とは異なり、地域ではなく、産業から生じた独特の文化を対象としている。
- (2) そのため、3つの文化施設については、地域とのつながりが比較的少ない。またワークショップ参加者にも地域の住民が少ないので、地域色のある活動が少ない。逆に「都市型」の文化施設としての色彩が強い。
- (3) 小須戸町屋は、地域住民自身からの、“地域を良くしていこう、まちづくりを行おう”という盛り上がりはあるものの、地域全体の盛り上がりに至っていない。
- (4) 各館のユニークさゆえ、各館の連携関係は構築されていない。
- (5) 公共交通機関を利用しての来客の想定ができない（駅・バス停などから離れている。）。

## 2. 施設別

### (1) 新津鉄道資料館

○入館者数：平成 12 年度：5,961 人、平成 16 年度：5,776 人、平成 22 年度：7,517 人  
→合併後、市内外の入館者が増加した。特に、新津以外の市内入館者が大きい。

○施設管理は、直営で元 J R 社員を 5 名臨時職員で採用。一定の知識があり、資料館の案内も行ってもらっている。一方、鉄道友の会（新潟支部）からは、開館当初から資料収集、提供などにおいて多大な尽力を受けているが、資料館での事業については関与していない。

○コレクションは充実（所蔵品約 8,000 点、うち 2,000 点を展示。）

○入館料 200 円（子供 100 円）  
→平成 16 年度歳入 1,037 千円（決算額）      平成 23 年度歳入 1,167 千円（予算額）

### (2) 石油の世界館

○入館者数：平成 12 年度：34,222 人、平成 16 年度：16,438 人、平成 22 年度：11,319 人  
→かなりの減少。

○博物館・物産館（+古代館）・遺産公園が区役所の異なる課の所管であり、かつ博物館・物産館を個々に指定管理者が運営する（指定の結果、同じ業者が運営）。

○友の会が自主活動（年間 70 万円程度）を行っている。基本はボランティア的活動で成り立っている。

○胎内市にはない近代化遺産が（モノ、場所、施設など）セットでそろっている。人を呼ぶ施設としてはその運営は大変だが、一方でその内容は全国クラスで誇るべき。

○入館料無料

### (3) 新津美術館

○入館者数：平成 12 年度：31,095 人、平成 16 年度：55,264 人、平成 22 年度：39,134 人  
→年間の企画展内容により入館者数も増減する。

○区役所所管ではなく、文化観光・スポーツ部が所管する本庁施設。館長を置き、職員が常駐する直営施設。美術館友の会などは置かれていない。

○入館料・・・企画展で異なるが、通常大人で 500 円～1,000 円。

### (4) 小須戸町屋

○小須戸町並み景観まちづくり研究会のメンバー（4～5 人）が活動を立ち上げてきた。

○商店街に 8 9 棟の町屋の建物が残っており、良好な保存状態でもある。

○拠点建物「薩摩屋」の 1 階は、常時オープンスペースになっていない（常駐のメンバーがいないため。）。

1 階の奥座敷は、「水と土の芸術祭」で整備してギャラリーにした。2 階の座敷は未整備。

○入館料無料

## 第2章 評価結果

### I ワークショップ・現地調査による検討、評価で見えた課題

#### 1. 共通課題

##### (1) 地元との密着度

- ①外の人は訪れるが、地元の人が来ないなど、地元との密着度が低い。
- ②合併直後は、一時的に来館者の広域化（合併後の市内）がはかられたが、その後は入館者が増加しているとは言えず、合わせて地元利用者も少ないままである。
- ③友の会などが地元との密着度が低い上に強固なものでないため、事業展開が少なく、アピールにつながっていない。

##### (2) 経常的な事業予算

- ①経常的な事業予算が少ない状況である。  
例えば、石油の世界館友の会では、年間70万円程度を自主会費から支出し、企画展など事業を展開している。石油の世界館を盛り上げることに資するものであるにもかかわらず、それに対する財政措置がない。

##### (3) 管理体制

- ①実質的には合併前の管理方法とほとんど変わらないままとっている。
- ②新津鉄道資料館は公民館職員による併務での業務、石油の世界館は指定管理者制度により、施設には専任職員は配置されていない。

##### (4) 広報活動

- ①広報も不十分であることから、地域の内外に情報を十分に周知することができない。

##### (5) 施設間の連携

- ①施設間の連携について、各グループともに、肯定的かつ積極的な思いがあるにもかかわらず、十分な連携が図られていない。

##### (6) 市役所・本庁所管の文化施設、区役所との連携

- ①市役所、本庁所管の文化施設による全体の方向性・方針が不明確となっており、そのため区ごとの方針も明確になっていない。  
こうした状況下で、市役所・本庁所管の文化施設、区役所との連携も不十分である。

## 2. 施設別課題

### (1) 新津鉄道資料館

- ①コレクションは充実しているが、全点の把握（データベース化）が不十分である。
- ②施設管理をする臨時職員（元JR社員）と、鉄道友の会（新潟支部）との連携がない。
- ③新津のまちなか（商工会議所、商店街）、JR東日本との連携が弱い。
- ④個別地域との結びつきが少ない。
- ⑤古い年代の資料の展示で高齢層には好評だが、新しい切り口の展示がなく、若年層にはアピールできない。学校の社会教育には有効であっても、外から訪れてもらう施設としての継続性に結び付いていない。

### (2) 石油の世界館

- ①無料施設ではあるが、入場者の大半は、秋のシーズン（もみじの季節）で、その他のシーズンは閑散としている。
- ②隣接の物産館や、石油文化遺産施設を管理する区役所の所管課がバラバラとなっており、効果的な一体管理がなされていない。  
※石油の世界館：地域課、物産館：産業振興課、石油文化遺産施設：建設課
- ③過去の石油産業の展示は豊富であるが、現在の産業展示がほとんどない。
- ④エレベーターがない。体が不自由な人は2階の企画展示室に行けない。
- ⑤区において、「にいつ丘陵里山保全活用基本計画」ならびにこれに基づき策定した「にいつ丘陵里山石油文化遺産基本計画」があるものの、今後の館、石油の里公園全体が目指すコンセプト、ビジョンが不明である。

### (3) 新津美術館

- ①博物館相当施設の指定を受けたことに伴い、常設展示を行っているが、現在の常設コーナーはパネルを利用しただけの簡素なものである。
- ②地域との関わり、結びつきがほとんど感じられない。
- ③隣接して県立植物園、県立埋蔵文化財センター、フラワーランド（民営）、国指定史跡古津八幡山遺跡があり、来年は古津八幡山遺跡の情報センターもオープンするが、これら施設との十分な連携が図られていない。
- ④エレベーターはあるものの階段が多く、移動しにくい。

### (4) 小須戸町屋

- ①町屋の保存や活用に対して、商店街の人たちの足並みがそろっていない。
- ②町屋については、地元から評価され、また市内外から、まち歩きなどで楽しんでもらう要素は大きいものの、現在の活動人員、拠点となる薩摩屋の整備状況は不十分。
- ③公開する町屋は少なく、まち歩きの拡大などに対応できない状況となっている。

## 第3章 今後の方向性について

### I 秋葉区の文化施設、活動の活性化へ

秋葉区の文化施設、そして小須戸の町屋の活動は、個々に独自の個性が確立されており、一括して活性化策を論ずるのは、むしろ各施設・活動の良さを失わせてしまうおそれがある。

先述のとおり、特に新津鉄道資料館、石油の世界館は、地域（旧新津市）において設置運営され、地域色のある“地域型文化”としての性格を有するとともに、外の人を訪れることの多い“全市型文化”としての性格も有する文化施設であり、新津美術館、小須戸の町屋と合わせ、それぞれの個性・独自性を尊重することが求められる。

短期的には、「今ある施設をどう活用していくか」をテーマに、すぐに改善を進めていくとともに、中長期的として、旧新津市、旧小須戸町からなる秋葉区においては、区内で一定の連携を持ちながらも、個々の個性がより活かせるよう、活性化のための方向性を設定する必要がある。

今回の現地調査とワークショップからの議論を踏まえ、また、新潟市文化施設のあり方検討アドバイザーである金山喜昭氏の検証・アドバイスも受けながら、

○文化施設・活動ごとに、

☆短期的（すぐに取り組みを始められること）

☆中長期的（体制、制度を見直し・検討してから取り組みを進めていくこと）

な対応策、及び

●区内共通、または連携による対応策

についてそれぞれ報告するものである。

### II 新津鉄道資料館 対応策

#### 1. 短期の対応策

(1) 現在は、収蔵品の展示のみとなっているが、今後さらなる集客をはかるためには、自主事業費を予算化して、新たな事業展開で、アピールを図っていくことが必要である。

(2) 約8,000点の収蔵品があるものの、それを把握する台帳などが不十分であることから、整理作業が必要である。台帳整理を行う人員の確保も視野に、数年計画で行っていく必要がある。



(3) 共同で事業を実施できる組織づくりが必要である。具体的には、鉄道友の会、鉄道OB会をはじめ、JR関係、商工会議所、商店街などの協力・連携を図りながら自主事業の展開を考えるべきである。

(4) 收藏品、及びそれらの展示については、ファン、歴史家などからの評価を受けている一方で、

- ・ストーリー性が少なく、新津の鉄道の歴史に対する興味を持ってもらえない。
- ・かつての地域住民の生活が身近に感じられる内容が少ない。
- ・最近の鉄道に関する收藏品がほとんどなく、子供たちから鉄道に興味を持ってもらえない。

など意見が出されている。

JRなどの関係者の協力を得て、新たな收藏品の確保を進めるなど、展示内容の見直し、展示のコンセプトづくりを進めていく必要がある。

## 2. 中長期の対応策

(1) 入館者数が伸び悩む現状を考慮すると、将来の無料化も、活性化のひとつである。無料の範囲を、「新潟市民」「中学生以下など」と限る方法もある。

(2) 「鉄道博物館」(さいたま市大宮区)、「交通科学博物館」(大阪市港区)などの全国の鉄道関係の博物館・資料館・記念館との連携を進め、さらには共同で事業を行うことにより、魅力の向上に努めることも必要である。

(3) まちなかの活性化のため、資料館の「駅前サテライト」的な施設の整備が考えられる。

その際には、空き家、空き店舗の活用といったものではなく、一定の規模を有する公共施設などでの対応が望ましく、整備は市で行い、運営や関係するまちづくりはまちなか(商工会議所、商店街)で行うことが理想的である。

また、運営にはまちなかのほか、JR関係者との連携・協力が必要不可欠である。

### Ⅲ 石油の世界館 対応策

#### 1. 短期の対応策

- (1) 現在、企画展は、石油の世界館友の会が自身の予算で実施している状況となっていることから、市として十分な活動を展開するための事業費を確保すべきである。
- (2) 現在は、石油の歴史、文化の“発信力”が弱い状態にあり、それが入館者の減少という悪循環をもたらしている。  
石油の歴史、文化を発信する取り組みとして、情報の発信に関する事業費を充実させ、継続的な情報の発信をしていくことが求められる。
- (3) 「石油の世界館友の会」に事業を委託し、その知識と経験を活かした企画展、イベント、教育普及活動、連携事業などによって活性化を図っていくべきである。
- (4) 展示内容については、石油の歴史、文化の発信内容について、新たなコンセプトづくりを検討するべきである。
- (5) 施設管理面では、開館時間に常駐している管理人は1人となっている。  
非常時における対応などを考慮する必要がある。

#### 2. 中長期の対応策

- (1) 石油遺産・石油の世界館などをトータルに案内する「ガイドの会」
  - ① 周辺地域住民との連携を図りながら、館内外、石油の里公園全体を紹介できるガイドの会を設立する。
  - ② 区役所も「ガイドの会」への事業委託を行うとともに、館・地域・行政の連携を図っていく取り組みを進めていくことが必要である。
- (2) 石油の世界館は、「石油の里公園」内施設の1つとして設置されているが、ほかにも園内には観光物産館、古代館（観光物産館隣り）、石油文化遺産施設、ふれあいと交流の森があるが、施設管理者はすべて異なっている。

※石油の世界館その他施設の管理の主な歴史

昭和 63 年 9 月 1 日～	旧新津市所管： 当初は企画室 →後に商工観光課	石油の世界館開館 (観光物産館も同時期開館、古代館は翌年開館) 管理：新津市石油文化振興財団への委託 ※当時の石油の世界館には、もみじ園（現在は財団法人中野邸美術館が管理運営）が含まれていた。
平成 9 年 4 月 1 日～	旧新津市所管： ・石油の世界館 ・観光物産館 ・古代館 →農・産業振興課  ・石油文化遺産施設 ・ふれあいと交流の森 →都市整備課	・石油の世界館（もみじ園除く。） 管理：新津市文化振興財団（新津市美術館を運営した財団）への委託 ※もみじ園 条例の公の施設から外す。もともと敷地含め個人（中野氏）から借り受けていたため、それを取りやめ。現在は、財団法人中野邸美術館が管理運営。  ・観光物産館、古代館 管理：新津地域振興株式会社への委託 ・この後、石油文化遺産施設、ふれあいと交流の森の整備を進め、一般にも公開
平成 17 年 3 月 21 日～ (新潟市との合併日)	市所管： ・石油の世界館 →歴史文化課	・石油の世界館 管理：新津文化振興財団（新津市文化振興財団名称変更）への委託
平成 18 年 4 月 1 日～	・その他 →新津支所	・石油の世界館 管理：指定管理者制度（NKS コーポレーション新潟支店）
平成 19 年 4 月 1 日～ (政令指定都市移行)		各施設が区役所管理となる。 ・石油の世界館：地域課 ・観光物産館・古代館：産業振興課 ・石油文化遺産施設・ふれあいと交流の森：建設課 ※観光物産館、古代館も指定管理者制度で、石油の世界館と同じ「NKS コーポレーション新潟支店」

そのため今後の全体像が十分に描けず、石油の里公園全体のコンセプト・方向性が失われるとともに、発信力も弱く、訪れる人（入館者）が少なくなる結果を招いているため、次のことを進める必要がある。

①石油の世界館をはじめとする石油の里公園の一体管理

- ・現在 3 課からなる管理を、1 つに集約し、効率的な運営と機能連携をはかり、全体の発信力を高める。
- ・石油の世界館、観光物産館・古代館については指定管理者制度を導入していることから、今後の指定期間、新規募集時期を考慮しながら、一体化を図っていく。

②今後は、産業遺産、近代化遺産公園的な整備を行うとともに、名称も「近代化遺産公園」などのようなものを検討すべきである。

(3) 施設の一体化とともに、石油の世界館、石油の里公園の活性化に資するために、館、区役所において、市内外との連携強化を進めていく必要がある。

①中野邸美術館との連携

(特に秋は、入場者も多くなることから、誘客に向けた連携をより一層進めていく。)

②「にいがた森林の仲間の会」など自然文化に関する団体との連携

(石油とともに自然文化の情報発信は、この地域の文化にとって重要でもある。)

③県内外の石油に関する資料館・記念館との連携

(情報交換のほか、広域的な事業実施などでアピールを行う。)

## IV 新津美術館 対応策

### 1. 短期の対応策

(1) 地元向けの活動の強化

現在は、区役所の所管ではなく、市役所文化観光・スポーツ部が所管する本庁施設の位置づけではあるものの、秋葉区の文化施設としての認知もあり、地域との関わり、結びつきのある事業展開についても図っていく必要がある。

地域・地元により一層目を向けた美術館としての活動が望まれる。

### 2. 中長期の対応策

(1) 常設展、企画展のバランスの再構成

現在の常設コーナーはパネルを利用しただけのものであり、展示内容としては不十分である。

展示計画は、数年のスパンで組んでいくことから、直ちに再構成することは難しいが、今後の展示計画の中で配慮がなされるべきである。

(2) 周辺施設との連携

周辺には県立植物園、県立埋蔵文化財センター、フラワーランド(民営)、国指定史跡古津八幡山遺跡、同情報センターがあり、これらと連携することでさらなる集客に活かしていくべきである。

(3) 新潟市美術館との役割・連携

①両館との人事交流(学芸員)は図られているが、人事面のほか、様々な面において今後のコンセプトづくりが求められる。

②新潟市美術館との連携について、例えば、新潟市美術館には多数の収蔵品がある一方で、

新津美術館は収蔵品が比較的少ないことから、新潟市美術館収蔵品の移動、さらには常設・企画展示を行うなどの取り組みを進めるべきである。

- ③両館の関係について、現在の組織上は“並列”の関係にあるが、両館の“機能上の”関係・連携については整理していく必要がある。

## V 小須戸町屋 対応策

### 1. 短期の対応策

#### (1) 活動拠点への支援

- ①現在は、常時オープンしておらず、人が訪れるフリースペースになっていない。

地域の人たちのたまり場、ビジターセンターとして機能づくり、さらには平成22年の小須戸大規模火災を踏まえた防災まちづくりの役割づくりのためにも、常駐事務員の配置（日中）による日常的なオープンの実現を図るべきである（お茶のサービスなど、人が訪れやすい環境づくり、仕組みづくりも合わせて）。

- ②交流、地域コミュニティの観点からも、地域が活動するためのサポート（予算面など）が必要である。

- ③現在は1階部分（奥座敷など）のみの整備にとどまっており、2階部分は未整備である（以下写真参照。）。

拠点の機能拡大は、交流、まち歩き開催時の食事スペースなど様々な活用につながることから、「薩摩屋」のハード整備も検討しなければならない。

課題としては、完全に個人所有の建物であることから、行政としてどうサポートしていくかがある。

1階内部



2階部分（矢印）



## 2. 中長期の対応策

### (1) 町屋の活用へ

- ①現在、限定の地域（商店街）に89棟の町屋が残る。良好な保存状態であるにもかかわらず、その保存、活用に対して、地域の足並みが揃っていないのが現状である。地域、区役所との連携を密にし、活用に向けたコンセプトづくりが求められる。
- ②見る、訪れることができる町屋を増やしていく取り組み、さらには小須戸地区に人が訪れる、入る仕組みづくりも合わせて進めていく必要がある。

### (2) 町屋のデータベース化、PR活動が欠かせない。技術的には、市歴史博物館などによる協力体制のもと進めるべきである。

- (3) 小須戸町並み景観まちづくり研究会のメンバー（4～5人ぐらい）から活動を立ち上げ、現在は、小須戸コミュニティ協議会も入った活動を続けている。
- 今後は、現在の活動人員、体制では不十分であると考えられるので、NPO法人化など組織づくりの検討が必要である。

## VI 市役所、区役所と文化施設、活動 対応策 ～連携、協働と方針づくり～

### 1. 区内での連携、協働

先述のとおり、ワークショップでは、「文化施設間の連携をはかる」をテーマに、他施設等との連携内容について下表のような提案を受けた。主なものは下記のとおりである。

各施設間の連携		2011.8.29		
協力をお願いしたい施設→ 連携依頼主 ↓	新津鉄道資料館	新津美術館	小須戸町屋	石油の世界館
新津鉄道資料館		イベント(銀河鉄道の夜)	イベント(舟運、陸運)	イベント(石油輸送) (いかに輸送されたか、場所の提供)
新津美術館	イベント (SLパネルの写真等、 鉄道の歴史)		イベント(資料の貸出)	施設 講演会の会場
小須戸町屋	イベント(船、SL)	施設の活用 人の派遣		イベント、講演会の依頼
石油の世界館	資料の貸出、施設の活用 (例:石油の輸送展)	講演会の依頼 写真パネルの貸出 シャトルバス	展示室の活用	

- ①新津美術館は、施設の面で最も充実している文化施設で、連携を進める際にはキーとなる施設となる。  
特に、市民ギャラリーにはワークショップ参加者が興味をもっており、事業の共催などによる他施設・活動との連携を図っていくべきである。
- ②新津鉄道資料館は、「鉄道」をキーワードにした企画展やイベントの連携を図り、他館などで事業を実施する。
- ③石油の世界館は、2階の展示スペースを、他館・活動との共同企画展などに提供する。
- ④小須戸町屋は、新津美術館の協力でアートスペースづくりを進める。
- ⑤ワークショップからの提案も合わせて、区内での文化施設・活動の連携を図り、事業展開を進めるためには、区役所によるコーディネートが不可欠であり、区役所が各施設等と調整を図っていくものとする。

## 2. 秋葉区「検討会」の設置 ～方針づくりへ～

今後の区役所の役割として、これら文化施設とその活動を、区内で盛り上げていくことがある。

しかし、合併してから6年半、政令指定都市移行・秋葉区設置から4年半、かつての職員体制は大きく様変わりし、文化施設、まちづくりなどの事情を知る職員の多くが区役所外に勤務する、あるいは、場合によっては退職しているのが現状である。

文化施設のあり方を検討し、文化施設・活動の活性化を図るためには、旧市町出身職員等の知恵、コネクションも有用であり、文化施設・活動を活かして新たに秋葉区のユニークさ、アイデアを出してもらう必要がある。

そこで、各々の事情を知る職員を交えた「検討会」を次の内容で置き、文化施設・活動ごとにテーマに沿った方針づくりを行うとともに、将来の活動に反映させていくこととする。

- テーマ：「秋葉区内の文化施設・活動の活性化と活用したまちづくり」
- 目標：文化施設・活動ごとに検討を進めていき、それぞれ方針をまとめる。
- 組織：文化施設・活動ごとに「検討会」を設置する。
- 構成：○旧新津市、旧小須戸町出身職員で精通する者（本庁，区在籍問わず。OBも可）  
○秋葉区長並びに区役所所管・関係課職員  
○施設・活動関係者、その他分野ごとの関係者（例：商店街、JRなど）  
で、検討会ごとに10名程度。
- 内容：○方針（文化施設・活動の活性化、ユニークさを区内外に出す など）を協議  
（ワークショップ形式 など）  
○先進地の調査
- その他：必要に応じて文化施設のあり方検討アドバイザーなどの出席をお願いし、ワークショップ運営に参画してもらう。

## 3. 館長の設置

新津鉄道資料館、石油の世界館については、施設づくりを行える人材としての「館長」の設置などを検討する。

## ○ 金山アドバイザーからのコメント ○

秋葉区の文化施設・活動の活性化に向けて

前回取り組んだ西蒲区の文化施設が「地域型」であるのに比べて、秋葉区のそれらは「都市型」であることが特徴的である。そうすると、見直しの考え方や手法も異なる。その留意点は次のとおりである。

①新津市美術館は、市役所文化観光・スポーツ部が所管する文化施設として運営しているが、学芸力の強化や常設展の位置づけが不明確などの諸課題がある。まずはPDCAサイクルを機能させて、現場での自己改善をはかることである。また、新館長のもとで再出発した新潟市美術館との連携に配慮することで、さらに市民サービスを向上させる。

②鉄道資料館と石油の世界館は、共に専門博物館としてユニークな博物館である。これらは地域内で完結するものではなく、全国に展開できるだけの文化資源を保有している。鉄道資料館はコレクション（約8,000点）、石油の世界館はコレクションと石油産業遺産が現状保存（石油の里）されている。しかし、現在はハコモノとして施設管理をするだけになっている。ハコモノからインスティテュート（機関）としての博物館に仕立て直すことが大きな課題となる。

③そのためには、まず専門家から意見や評価をうけて客観的な見立てを行う。今後設置される「検討会」では、今回の報告書で示された成果とあわせて、両施設の今後のあり方に関するテーマを絞り込む。両者の有する文化資源は、新潟市にとっては「宝の山」であるから、それをいかにして有効活用するかをテーマに表すのである。

④そのテーマを実現するために、組織や人員、運営形態、施設、展示、そして予算などについて具体的に検討する。なお、「検討会」は鉄道資料館と石油の世界館と分けることが望ましい。

⑤なお、鉄道資料館については、今後はJRとの連携や協力が不可欠となる。また石油の世界館は、石油の里を含めて、専門家との連携が必要である。

⑥小須戸町屋「薩摩屋」グループは、市民活動である。将来的には小須戸の町屋の「町並み」を伝統的建造物群保存地区（国指定文化財）として指定保存することを目標にしているようである。その前提として地元住民の理解と協力は欠かせない。そのために地域コミュニティの拠点を整備して、地元住民の交流や啓蒙活動を通じて目標の達成を目指すことができればよい。今のところは、行政が直接に関与するものではないが、そのための条件を整備することはできる。

一方、小須戸町屋「薩摩屋」グループは、地域活性化のために行政を、もっと活用することができる。それは行政に何でも要望することを意味するのではなく、自らがアイデアを出して実施主体になるとともに、行政にも協力を要請するスタイルをとるようにするとよい。今回の町屋活動をその一つの契機にしていただきたい。

⑦本報告書にも示したように、施設間や市民文化活動との連携をはかることで、お互いの弱点を補い合うことや、逆に強みを強化することができる。そのポイントは「緩やかな連携」である。地域内で相互交流することや、相手のやっていることを理解し合う、必要に応じて事業に協力することもある。それぞれが個性的な存在であるから、それを尊重するとともに、かつ独自性を発揮できるようにしていくことである。



## おわりに

市内の文化施設全体の機能強化を視野に入れながら、西蒲区に引き続き、秋葉区においてもその（文化によるまちづくり活動を含む。）あり方を検討した。

秋葉区に所在する文化施設【新津鉄道資料館、石油の世界館、新津美術館】は、独特の歴史と文化を表現していく文化施設である。小須戸地区の町屋を活かしたまちづくりの活動についても、文化施設ではないものの、同様の趣旨が当てはまる。

そのため、秋葉区では、互いに連携は図っていきつつも、いかにそれぞれの施設・活動が、その個性を発揮し、伸ばしていき、ひいてはその魅力を市内外にアピールし、もって地域の活性化を図っていくかが目標になってくる、ということが言える。

市役所・区役所は、施設・活動の特性や支える団体などの特性に応じた“条件整備”、さらには活動主体となる団体の自発性や自主性を最大限に尊重しつつ、施設・活動の活性化を実現するためのサポート体制をとることが大切である。

ただ、市役所・区役所に単に依存する形態ではなく、市役所・区役所は条件整備を進めつつも、団体が個性を発揮し、必要に応じて行政・民間が協働することが求められており、そのためにも今回の報告書に沿って文化施設・活動の活性化を図っていく必要がある。

西蒲区、そして今回の秋葉区における文化施設のあり方の検討によって、地域の文化施設の将来像、そして今後の方向性について明らかになってきた。

今後、文化施設を抱える各区は、西蒲区や秋葉区における取組を参考としながら、それぞれの地域の特性を踏まえつつ、文化施設の再生・活性化を図っていかなければならない。

# 資料編

## 第1回ワークショップ（WS）

### ○参加者

	氏名	所属・役職等
新津鉄道資料館	瀬古龍雄	鉄道友の会新潟支部
	田村正	鉄道OB会新津支部
	田中茂夫	新津地区公民館（秋葉区役所地域課）
石油の世界館	小林巖雄	石油の世界館友の会会長
	渡辺其久男	石油の世界館友の会副会長
	庭田盛範	石油の世界館友の会幹事
	中島哲宏	石油の世界館友の会事務局長
	山口聖一	(株)NK Sコーポレーション（指定管理者）
	片桐寛明	(株)NK Sコーポレーション（指定管理者）
	星元	秋葉区役所地域課
新津美術館	小林巧	新津美術館副館長
	井浦徹	新津美術館
	大森慎子	新津美術館
	小松章子	新津美術館
小須戸町屋	村井豊	小須戸小学校区コミュニティ協議会
	長井利夫	小須戸小学校区コミュニティ協議会
	石田高浩	小須戸小学校区コミュニティ協議会
	佐藤奉子	小須戸小学校区コミュニティ協議会
	大貫弘美	小須戸小学校区コミュニティ協議会
	大杉克行	秋葉区役所小須戸出張所

### ○WSで得られた参加者などからのコメント

#### 1. ワークショップでよかったこと

秋葉区で今後の改善や発展事項が多数あることがわかった。
具体的に項目毎に目的がハッキリしているので考えること、意見が出し易い。スタッフが協力してくれて良かった。
いろいろな意見が聞けて良かった。わかりやすくて良かった。スタッフが親切でした。
石油の世界館の運営上、非常に役立った。
他の施設の様子がわかりました。かなり異なるように思いますので時間をかけることも必要に思います。
友の会で以前から話し合ってきたことを改めて確認することになりました。基本的には行政サイドからの人的にも財政的にも手だてを取ってほしいと思います。
施設内の良い点、悪い点が整理でき、わかりやすくなった。他施設の問題点と合わせて解決策を考えられそうである。
こういうスタイルのワークショップを経験できたこと。
日頃から感じている課題が具体化できた。

以前、同様な事を行った事があったが、人事異動などで本日のメンバーと行った事がなかったのので有意義であった。問題意識を共有したり、良いと思う所を共有できた事も有意義であった。
普段は目の前の仕事に追われ、なかなかこのようなことが思いついても話し合うことができないことが多いのでよかった。
他の施設の方と顔合わせできたこと。そして、その方々が自分の施設についてどう思っているのか知ることができたことです。
現状の課題が具体的に出てきて良かった。
現状整理ができたこと。
現状認識（良い点、悪い点、疑問点）から始まってそれをハード面、ソフト面 etc, 細かく分析した上で改善点（対策）を考えていくという一連の過程を学んだ。能率よく上記の過程を踏まえながら作業が出来たと思う。良い体験をさせていただきました。
他の文化施設を知ることが出来たこと。歴史等のお話が聴けて良かったです。特に鉄道資料館に足を運んでみたいと思いました。
他の地域の皆様の事を聞かせていただき色々考えさせられました。参考に出来る事をこれからみだせれば良いと思う。
KJ法をはじめてやったこと。

## 2. ワークショップの中でこうすればよかったこと

施設の改善だけでなくそれを起点としてどうしたら住みよい町、楽しく暮らせる町になるか施設以外にも広く協議する必要がある。市営、区営だけではなく、県営（植物園）JR（工場）など意見を出したい所は数多くあると思う。
時間が足りない。
はじめてなので、こういうものなのかと思いました。
各館のパンフレットがあったらよかった。
新津丘陵には多くの活動グループあります。これらの多くは丘陵全体をフィールドと考えて進めています（展示場が野外という意味です）。
初めてなのでよくわかりません。
改善策を考える時間がもう少し長く欲しかった。
会場が暑かった。
時間があれば他の方たちの意見も聞けると来館者としての目での改善策も聞くことができたのでは。改善策にもう少し時間があった方が良かったと思います。
時間がなかったこともありますが、他の施設の方ともっとつっこんだ話がしたかったです。館別ではなく、みんな混合で話し合いたかったです。
改善策はもっと時間を取らないと、なかなかいい案が出ないと思いました。
各施設の概要のわかるような資料があれば欲しかったです。
上記の考え方で地域や施設を見ていきたいと思う。後半は疲れ、頭が働かなくなりました。
ギャラリー運営についてのワークショップは何度か実施していますがその先に進むことが出来ません。次回が楽しみです。大変ありがとうございました。
他の会の人とこれからも話をする機会を期待します。

## 第2回ワークショップ（WS）

### ○参加者

	氏名	所属・役職等
新津鉄道資料館	瀬古龍雄	鉄道友の会新潟支部
	大内清	鉄道OB会新潟支部
	田村正	鉄道OB会新潟支部
	田中茂夫	新津地区公民館（秋葉区役所地域課）
石油の世界館	小林巖雄	石油の世界館友の会会長
	渡辺其久男	石油の世界館友の会副会長
	庭田盛範	石油の世界館友の会幹事
	中島哲宏	石油の世界館友の会事務局長
	山口聖一	(株)NK Sコーポレーション（指定管理者）
	片桐寛明	(株)NK Sコーポレーション（指定管理者）
新津美術館	小林巧	新津美術館副館長
	井浦徹	新津美術館
	大森慎子	新津美術館
	小松章子	新津美術館
小須戸町屋	村井豊	小須戸小学校区コミュニティ協議会
	長井利夫	小須戸小学校区コミュニティ協議会
	石田高浩	小須戸小学校区コミュニティ協議会
	佐藤奉子	小須戸小学校区コミュニティ協議会
	大杉克行	秋葉区役所小須戸出張所

### ○WSで得られた参加者などからのコメント

#### 1. ワークショップでよかったこと

各施設の設備面及び活用状況が把握できた。各施設の運営面及び経費面について少し知ることができた。秋葉区の在中で他施設を良く知らなかったが、知るチャンスが出来て良かった。次回のワークショップ（テーマ）について少し見えて来た。
秋葉区に在住しながら施設めぐりをして詳しく説明して頂き、新ためて良さを実感した。
小須戸：他にも類似の良建物の保存を望みたい。 石油の世界館：館入館無料はおかしい、設備の改善などに。 美術館：絵本、歴史的なものも展示したら。（キンダーシップなど） 鉄道資料館：シュミレーター（運転装置）をおくと人気がもっと上がるはず。
自分の考えや見方で物事を批評していますが、多くの人の意見を聞くことによって見聞が広まり、問題解決の糸口が見つかります。
各施設の見学が出来たこと。各施設の特徴を生かした総合案内がつくれそうである。 <共通課題>①各施設ともにPRが足りない。知られていない。②交通の便が良くない。③連携が取れていない。
他の文化施設の見学が出来てよかった。
各施設見せて頂きました。アクセス他、問題点が見えてきました。
各施設の特徴や工夫などを把握できた。
他の施設の話聞かせてもらった事。 鉄道資料館：今迄の汽車の走っている時の現物がたくさんあるのに、驚きました。

石油の世界館：油を掘る山の模型わかりやすく良かったと思いました。

新津美術館：前の道路を通ると、いつも沢山の車が止まっていて、いくつかの施設があり、小高い山の環境で新潟市内あたりから来ると、良い施設なのかといつも思っていたのですが？さて、美術館はどうでしょうか。

小須戸町屋：参加している人が少ない。今迄やっている私どもが一步下がって町内会、商工会、出張所等の人達からどうやったら参加してもらえるか。参考の意見をお聞かせ願えればありがたいです。他の人達が参加願えれば、今までの私どもが一步下がっての協力が出来ればありがたいと思うのですが？

初めて入館した施設もあり、大変興味深く見学させていただきました。今後のワークショップにおいて各施設を具体的にイメージできるので良かった。

## 2. ワークショップの中でこうすればよかったこと

時間的な関係も有るのですが、もう少し運営する人の面（問題点）及び入館者のニーズ面（要望・意見）を知りたかった。

市、区の建物だけでなく遺跡、古墳など考古部分も含めては。

各文化施設の中心はなんなのか？各文化施設の歴史をはっきりして欲しい（表示の仕方を分かりやすくする）。各文化施設の連携をどうしたらよいか？（年1～2回の連絡会の開催）

新津鉄道資料館は館内が狭く、展示物がかわいそうであった。

事前に（バスの中などで）各施設の資料など配布しておけば効率がよかったと思う。

## 第3回ワークショップ（WS）

### ○参加者

	氏 名	所属・役職等
新津鉄道資料館	瀬 古 龍 雄	鉄道友の会新潟支部
	大 内 清	鉄道OB会新津支部
	田 村 正	鉄道OB会新津支部
	浅 見 孝	鉄道OB会新津支部
	田 中 茂 夫	新津地区公民館（秋葉区役所地域課）
石油の世界館	小 林 巖 雄	石油の世界館友の会会長
	渡 辺 其久男	石油の世界館友の会副会長
	庭 田 盛 範	石油の世界館友の会幹事
	中 島 哲 宏	石油の世界館友の会事務局長
	山 口 聖 一	(株)NK Sコーポレーション（指定管理者）
	片 桐 寛 明	(株)NK Sコーポレーション（指定管理者）
	星 元	秋葉区役所地域課
新津美術館	小 林 巧	新津美術館副館長
	小 熊 千佳子	新津美術館
	小 林 一 吉	新津美術館
	小 松 章 子	新津美術館
小須戸町屋	長 井 利 夫	小須戸小学校区コミュニティ協議会
	石 田 高 浩	小須戸小学校区コミュニティ協議会
	大 杉 克 行	秋葉区役所小須戸出張所

## OWSで得られた参加者などからのコメント

### 1. ワークショップでよかったこと

他の施設が誇れること、困ることがわかり大変有益であった。前回の見学がそのまま反省と希望を与えた。
鉄道資料館もマンネリ化しており、何か変えなければと前から考えていたが、今回のイノベーション・ミッションの手法及び連携の手法が非常に分かり易く実施の可能性を強く感じた。
手法が簡潔でまとめ易い。具体的に目的がハッキリしてきた。
各施設とのイベント等開催に伴う協力点が理解出来た。各施設の役目が理解出来た。
気付かなかった事が、まわりのいろいろな人の意見により、気付かされて大変良かった。他の施設の人と連携が取れそうで先が広がった感じがします。
問題点や連携について討議できて良かった。少し何かが見えなかったものがあり、成果があったと思う。
連携について考えたこと。
各文化施設の様子が解明されると自分なりに思っている。
他の施設との連携が実現できそうな道筋が見えてきた。問題点を連携する事で互いに解決の見通しが立つのでは。
すべての参加者の発言を妨げず進行したこと。
連携の具体的な姿が見えてきたように思われる。各施設の皆さんの考え方も理解できた。
野田市の事例が参考になった。鉄道資料館、石油の世界館、町屋の会の人たちの考え方が分かったような気がする。
他施設の関係者の生の声を聞くことができて、参考になった。連携、協力できる場所はお互いに話し合いながら行っていきたい。
各施設が美術館に何をしてほしいかわかった。
いろいろな施設との連携の可能性が見えたこと。
各施設の問題点や可能性を引き出すことができたと思う。

### 2. ワークショップの中でこうすればよかったこと

区の予算その他で各施設の責任者に今日の成果と今後の行動に乗り気になる上役がほしい。
質問の時間をもっと多くとった方がよい。
時間が足りない。区の方の考え方も欲かった。(ビジョン・方法等)
発表者にもう少し時間を与えたら良かった。
今後の進め方はどうなりますか。秋葉区の博物館から新潟市の博物館へと脱出したい。所用品を文化財とする方向。日本の博物館、野外展示物とする大きな夢を持ちたい。
来場者を増やすための総合的な方策を考える。 (例)・総合案内を作成する(宣伝不足の解消)・イベント交流など
新しい作品づくりとイベント開催についてどんどん計画したい。特に文化施設間の連携については、年1回くらいは話し合いの場をもつたらと思います。
本日の内容ではちょっと時間が足りなかったように感じます。
公民館、図書館もワークショップに交えた方が良いと思う。全4回ということで、時間が足りないような気がします。
グループの参加者が少なかったのが残念だった。次回開催時に今回の復習の時間があると助かる。

## 第4回ワークショップ（WS）

### ○参加者

	氏 名	所属・役職等
新津鉄道資料館	大 内 清	鉄道OB会新津支部
	田 村 正	鉄道OB会新津支部
	浅 見 孝	鉄道OB会新津支部
	田 中 茂 夫	新津地区公民館（秋葉区役所地域課）
石油の世界館	小 林 巖 雄	石油の世界館友の会会長
	渡 辺 其久男	石油の世界館友の会副会長
	庭 田 盛 範	石油の世界館友の会幹事
	中 島 哲 宏	石油の世界館友の会事務局長
	山 口 聖 一	(株)NK Sコーポレーション（指定管理者）
	片 桐 寛 明	(株)NK Sコーポレーション（指定管理者）
	星 元	秋葉区役所地域課
新津美術館	小 林 巧	新津美術館副館長
	井 浦 徹	新津美術館
	大 森 慎 子	新津美術館
	小 松 章 子	新津美術館
小須戸町屋	長 井 利 夫	小須戸小学校区コミュニティ協議会
	石 田 高 浩	小須戸小学校区コミュニティ協議会
	佐 藤 奉 子	小須戸小学校区コミュニティ協議会
	大 貫 弘 美	小須戸小学校区コミュニティ協議会
	大 杉 克 行	秋葉区役所小須戸出張所

### ○WSで得られた参加者などからのコメント

#### 1. ワークショップでよかったこと

行動計画の進め方が具体的であり、やり易かった。第3回の終わりで次回はどのように進める等の説明があればもっと深く追求できたと思う。連携について非常に参考になった。
J RのOBとして意見を具申し、人の考え方を把握させてもらった。更に深度化した側面援助をしていきたい。
各施設の今後の方向性が示された。今日は発表者と言うことで大変でしたが日々思っている事柄が話すことが出来た。時間的なものもあり、少し疲労感がある。今回真剣に当館の今後について考えることが出来た。
色々な角度から鉄道資料館を見て、また人に気づかされて多くの事を考えた。他の施設も一緒だったのでイベントなど協力できる点がお互いに認識できた。
各施設の様子がわかりました。レベルはさまざま。鉄道の発表は速やかに。美術館へは地球の芸術家を大切に。施設運営について産業遺産の整備について日頃考えていた事、話合っていた事など（一定の枠があるが）整理することができた。今後の活動に生きていくと思います。
問題点が明らかになり、共通認識ができたこと。後は行政で生かされることを願っています。地域の活性化を中心に考えて行くべきと考える。（地域の意見要望を取り入れて）
4回の流れの中で他館との連携、世界館として今何ができるか、またその考え方が整理がついてきた。
こうじた機会でもないと、他の施設の方々が何を考えてらっしゃるのか分からなかったのが有意義でした。
各施設の目指すところが明らかになった。

普段は目の前にある仕事に追われ思うところはあっても、なかなか他のスタッフと意見を交わす時間がとれないが今回のワークショップでは、今美術館が抱えている問題点を整理、共有できたことが最も有効だったと思う。少し手をかければ少しずつ良くなる小さな積み重ねを今後も心がけていければと思った。ありがとうございました。
当館の現状、問題点が浮き彫りになり、それに対する課題が明らかになったこと。
これから何ができるか、やるべきか、はっきりわかった。今回参加した施設にかかわっているスタッフの方々を知ることができた。
活動の課題と今後の方向性を整理できた。こういったワークショップを地域の商店街の人々と行うことでできれば小須戸でも今後のまちづくりに熱心に取り組む人が増えると思う。
多面的なものごとが見られたり、考えたりするのが出来たことが良かった。当グループに限らず他グループの施設についての理解が深まり大変さ、ご苦労を知り得た。同じ場に立つWSのお陰でお互いに連携していける部分もあり、もっと足を運び広げていきたい。
先生からのコメントで常時オープンすること。それをしないことには町民からの理解を得ることが出来ないと何も伝わらないということ。町屋のボランティアとして何とか具体策を見つけて1歩前に進みたい。マンパワー確保=シャッターをオープンにすること。課題が見えてきて、頑張ってみようと思いました。
他の団体・会の話聞かせていただき、自分達の町屋の参考にこれからどうするか相談していったら良いのかと思いました。
施設の課題が具体的に見えてきたこと。(短期・中期・長期目標も含めて) 実際目標を達成することは、大変なステップを経る必要があることや予算、人員の確保の方法(裏づけ)が不可欠であることも認識した。

## 2. ワークショップの中でこうすればよかったこと

グループメンバーで事前に行動計画を持ち寄り、考え方をまとめておけばもっと深く追求できる。
年間を通しての活性化を図ることは難しいが、やればその効果は必ずある。例えば次の事を提起したい。 ・JR関係イベント8月、9月、10月      ・音楽関係イベント4月、6月、12月(洋楽、和楽、古典楽) ・文化活動1月、2月、3月、食の陣等イベント      ・商店街の独自イベント
課題が大きいので少し討議及び発表する時間が足りないと思った。
発表する人が変わったのが良かった。同じ人ばかりでない方が良いと思います。
ワークショップのスタイルでの話し合いは初めて。内容について、始まる前に説明がほしかった。
来場者を増やすための方策について。
地元との連携が非常に大切であると感じた。
時間がたりない。他館との具体的な企画を共同で考える時間がほしかった。
これだけの事をまとめるには少々かけ足だった様な気がします。
2つ目の課題が突然出たもので、とまどった。
ワークショップの改善点というわけではないが、今後も各施設で連携していけるような仕組みをつくってほしいと思う。定期的な意見交換などを開催してほしいと思う。
大変有難い機会を与えていただき感謝しています。町屋ギャラリーに微力ながら係わっていききたい。このような形がまさしく共働なのだと思えた。